

台風18号の接近に伴う被害防止対策について

気象災害対策R1-9
令和元年10月2日
農林総合研究センター

I 被害防止対策

詳しい台風情報、解説は最終ページ

現在、台風第18号は、東シナ海を時速20kmの速さで北北東へ進んでいます。

石川県に最接近する4日（金）午前には温帯低気圧となる見込みですが、引き続き強風が予想されます。

今後の台風情報に十分注意し、万全の対策を講じて下さい。

〈要旨〉

- 1 露地ほ場を中心に前回の大雨による被害状況を確認するとともに、大雨に備え、再度、排水路を点検・連結するなど、排水対策を徹底する。
- 2 水稻の収穫期となっているほ場は、作業の安全に十分に留意した上で、可能な限り刈取作業を進める。また、倒伏した稲は、穂発芽等による品質低下を防ぐため、排水対策に努める。
- 3 野菜や花き等の園芸施設では、施設内に風が吹き込まないように、サイドのフィルムを下ろし、破損箇所を速やかに補修するとともに、ビニールのバタつきを防ぐため、ハウスバンドを締め直すなどの点検・整備を実施する。
- 4 収穫期に入っている園芸作物では、熟度を確認し、収穫可能なものは早急に収穫、出荷する。

〈詳細〉

II 農作物の被害防止対策

1 水 稲

現在、直播・晩植コシヒカリ、晩生のひゃくまん穀は刈取適期を過ぎている。

(1) 事前対策

作業の安全に十分に留意した上で、降雨前に可能な限り刈取作業を進める。

(2) 事後対策

- ① 降雨による穂発芽の発生が懸念されるため、特に倒伏した圃場では排水対策を徹底しておく。(暗渠排水の水閘を開放しておく)。
- ② 穂発芽等による品質低下を防ぐため、速やかに刈取作業を進める。
- ③ 被害粒(胴割粒、着色粒等)混入による等級低下を防ぐため、強風による舂擦れなどの被害を受けた場合、収穫・調製作業を可能な限り分別して行う。
- ④ やけ米防止のため、収穫した生粳は速やかに乾燥機に張り込み、通風を行う。生粳を4時間以上放置することは避ける。特に高水分粳では注意する。

2 大豆

現在、「エンレイ」は黄葉～落葉期、「里のほほえみ」は黄葉期となっている。

(1) 事前対策

排水対策を徹底しておく。

降雨後に圃場内に停滞水が残らないように、事前に畦間と排水溝との連結を点検し、必要があれば補修しておく。

(2) 事後対策

台風通過後は速やかに圃場を点検し、排水状況を確認し、必要があれば補修する。

3 大麦

現在、播種作業直前である。播種適期は10月中旬である。

(1) 事前対策

作付を予定している圃場では排水対策を徹底しておく。降雨後に圃場内に停滞水が残らないように、額縁明渠を施工し、ほ場内に停滞水が残らないようにする。

(2) 事後対策

- ① 台風通過後は速やかに圃場を点検し、排水状況を確認し、必要があれば補修する。
- ② 播種作業は、排水状況や土壌水分など、ほ場条件を確認した上で実施する。

4 野菜・花き

(1) 事前対策

① 施設野菜・花き(トマト、きゅうり、軟弱野菜、ストック、葉ぼたん等)

ア ハウス周囲の排水溝を点検・整備し、施設内に雨水が浸水しないようにする。

※ 排水溝は施設内通路より低い位置まで掘っておく。

イ ハウス周辺の資材等が強風で飛ばされビニール等を破損させることがないように施設周辺を片付けておく。



ハウス周辺の排水溝

- ウ 施設内に風雨が吹き込まないように、サイドのビニールを下ろし、ガラスの破損やビニールの破れた箇所等は速やかに補修する他、ビニールのバタつきを防ぐため、ハウスバンドを締め直すなどの点検・整備を早急を実施する。
- エ 換気扇が設置されている場合は、暴風時に施設を密閉し、換気扇を稼働させて、施設の内圧を下げて、フィルムがばたつかないようにする。密閉する場合は、台風通過後ただちに換気を行う。
※自動換気装置等を導入している施設では、スイッチを手動に切り替える。
- オ 施設内が高温になると、葉や生長点が焼ける恐れがあるため、頭上から噴霧散水して作物体温やハウス内の温度を下げる。

② 露地野菜・花き（だいこん、かんしょ、ねぎ、なす、ブロッコリー、きく等）

- ア ほ場周囲に明渠排水（額縁排水）を設置し、通路は滞水しないよう傾斜をつけ、速やかに排水されるか確認しておく。明渠が崩れている場合は補修しておく。畑地では、土壌浸食、水田転換畑では冠水を防ぐ。
- イ 収穫可能なもの（なすなどの果菜類、だいこん、ブロッコリーなど）は、早急に収穫する。
- ウ なすなどの棚仕立ての品目では、筋かいや直管で棚を相互に連結し、また周囲の杭等と棚を固定し、棚全体を固定・補強する。
- エ 砂丘地のだいこん、にんじん、かんしょ等では、飛砂防止のために防風ネットの設置や寒冷紗のべたがけをする。降雨がない場合は、スプリンクラー散水を強風の前から台風が通過するまで行う。
※ 飛砂を抑制すると共に、防風ネットやべたがけ資材の巻き上げを防ぐ。
- オ ねぎはパイプ支柱を1.8m間隔に立て、2本のハウスバンドで挟み込むように連結結束し、横ゆれを防止し、葉の損傷や倒伏を抑制する。
- カ きくなど立体栽培の花きは、鋼管支柱を3～5m毎に打ち込み、ネットを補強する。さらに、うねの中央に数m置きに支柱を立て、支柱を中心にネットを絞り込み、茎葉を固定する。

（2）事後対策

① 施設野菜・花き（トマト、きゅうり、軟弱野菜、ストック、葉ぼたん等）

- ア ハウス、トンネルのビニールやフィルムの飛散・破損は速やかに復元を図り、通路等に停滞水がないように表面排水に努める。
- イ 施設内環境を元に戻すため、換気を行う。ただし、ハウス内環境と外気との温度差が激しい場合は、換気幅を徐々に広げる。
- ウ 施設内の作物で萎れが発生した場合は、頭上から噴霧散水して植物体やハウス内の温度を下げる。頭上散水のない施設で萎れが著しい場合は、動力噴霧器または簡易スプリンクラーを利用し、噴霧散水する。
- エ 自動換気装置などを手動から自動へと切り替え、施設内環境を回復する。
- オ 養分過剰吸収による栄養生長過多や裂果等の障害果が発生しないように適正な水管理、換気に努める。
- カ 被害状況に応じて速効性肥料の施用や液肥の葉面散布などによる草勢の回復に努める。

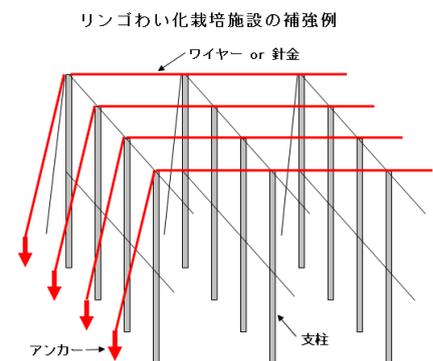
② 露地野菜・花き（だいこん、かんしょ、ねぎ、なす、ブロッコリー、きく等）

- ア ほ場のうね間等の滞水は根腐れによる草勢の衰えや病害の誘起につながるため、表面排水に努める。うね間が縦に長く停滞水となる場合は、うねの一部をつぶして横方向にも排水のための明渠を設け早期排水に努める。
- イ 冠・浸水した圃場では、根腐れ、疫病等の被害が発生しやすくなるので、早急に防除を実施する。砂丘畑でも、集中豪雨で冠水となった場合は疫病防除を行う。茎葉が泥水等で汚染された場合は、洗い流すように防除する。
- ウ 強風や飛砂で茎葉が傷んだ場合は、通過後直ちに速効性肥料で追肥する他、病害が発生しやすいので、殺菌剤による防除を行う。収穫間際や収穫中の作物では、収穫前日数や薬害に留意し薬剤を選定する。
- エ ねぎやブロッコリーなどが風雨にもまれて作物が傾いた場合は、台風通過後、株もとに土寄せし、垂直に戻す。
- オ 花きでは、風で茎が斜めになった場合は、台風通過後2～3時間以内にネットを起こしたり、張り直したりして株を起こす。特に、露地ぎく、葉ぼたんでは起こすのが遅れると茎が曲がり、元に戻らなくなるので注意する。
- カ 肥料の流亡もあるので液肥または速効性肥料を施し、生育の回復に努める。また、フェーン現象による急激な温度上昇や降雨による根部の活力低下により、ホウ素欠乏や石灰欠乏等の微量要素欠乏が懸念される場合は、微量要素の葉面散布を実施する。

5 果樹

(1) 事前対策

- ① 収穫期に入っているなし、りんご、くり、かき、いちじく等は、熟度を確認し、収穫可能なものは早急に収穫、出荷する（ただし農薬使用基準を遵守すること）。
- ② 防風施設は支柱を点検し、ネットの破れ等は補修し架線にしっかり固定する。
- ③ りんごの普通栽培やかきでは、枝の揺れによる落果を防止するため、枝の結束や支柱立てを行う。特に、果実の多い枝は、抵抗が大きく揺れやすいので注意して行う。
- ④ りんごのわい化栽培では、支柱の上部をワイヤー等で連結し補強する。
- ⑤ 棚栽培での果実の落果のほとんどが、風圧による棚の上下動が原因であるため、必要に応じて支柱・アンカー等で棚面を補強し、揺れを抑える。
- ⑥ キウイフルーツ、いちじく等の新梢は折れやすいので、被害を軽減するため、新梢を棚面や支柱等に固定する。特に、いちじくでは、葉擦れが原因でサビ果が発生するので、新梢が揺れないようしっかりと固定する。
- ⑦ ぶどうの収穫が終了した園は、速やかにビニールをはずす。また、防鳥網、防風ネットは風で飛ばされないようしっかりと固定する。
- ⑧ 高接ぎ更新などの接ぎ木部分は風に弱いので、支柱を添えて必ず補強する。また、以前に裂けた枝、裂ける危険のある個所についても補強が必要である。
- ⑨ 大雨を伴う場合は、排水溝を設置するなど園内の排水対策を行う。



- ⑩ 事後対策のための資材等を予め準備しておく（薬剤、補修資材等）。

（２）事後対策

- ① 台風で打ち身やすり傷を負った果実は、軟化、腐敗や落果が懸念される。収穫可能な果実は直ちに収穫し、食用、加工用、飼料用、廃棄するものに分別し、処分する。また、落下果実は直ちに園外へ持ち出す。
- ② ビニールハウス、果樹棚、支柱等の施設の被害は早急に補修する。
- ③ 倒伏樹は速やかに起こし、支柱で固定する。太根の切断が著しい場合は、その程度に応じて地上部を切りつめる。
- ④ 枝裂けは状態に応じて傷害部を削り取り、塗布剤で処理する。
- ⑤ 落葉被害を受けた場合は、被害程度に応じて摘果を行い、果実品質維持と樹体の回復を図る。
- ⑥ 強風で葉や新梢が傷ついた場合、使用基準に基づき保護と防除を兼ねて速やかに殺菌剤を散布する。

6 畜産

（１）事前対策

- ① 畜舎内に風が吹き込まないように、窓、戸等の破損箇所は速やかに補修する。
- ② 暴風時は風向きを考慮し畜舎の開口部を最小にして、換気扇を稼働させて換気を行う。
- ③ 停電によって搾乳作業やバルククーラーが止まることが予想されるので、緊急時の発電機の確保を検討しておく。

（２）事後対策

- ① 畜舎の点検を行い被害箇所の修理を行う。
- ② 畜舎への浸水があった場合は、排水に努め、水が引いた後、速やかに畜舎、家畜、設備器具の水洗、乾燥、消毒を実施する。特に、搾乳機器は故障箇所の点検を行い、消毒等の衛生対策を徹底する。

7 飼料作物

（１）事前対策

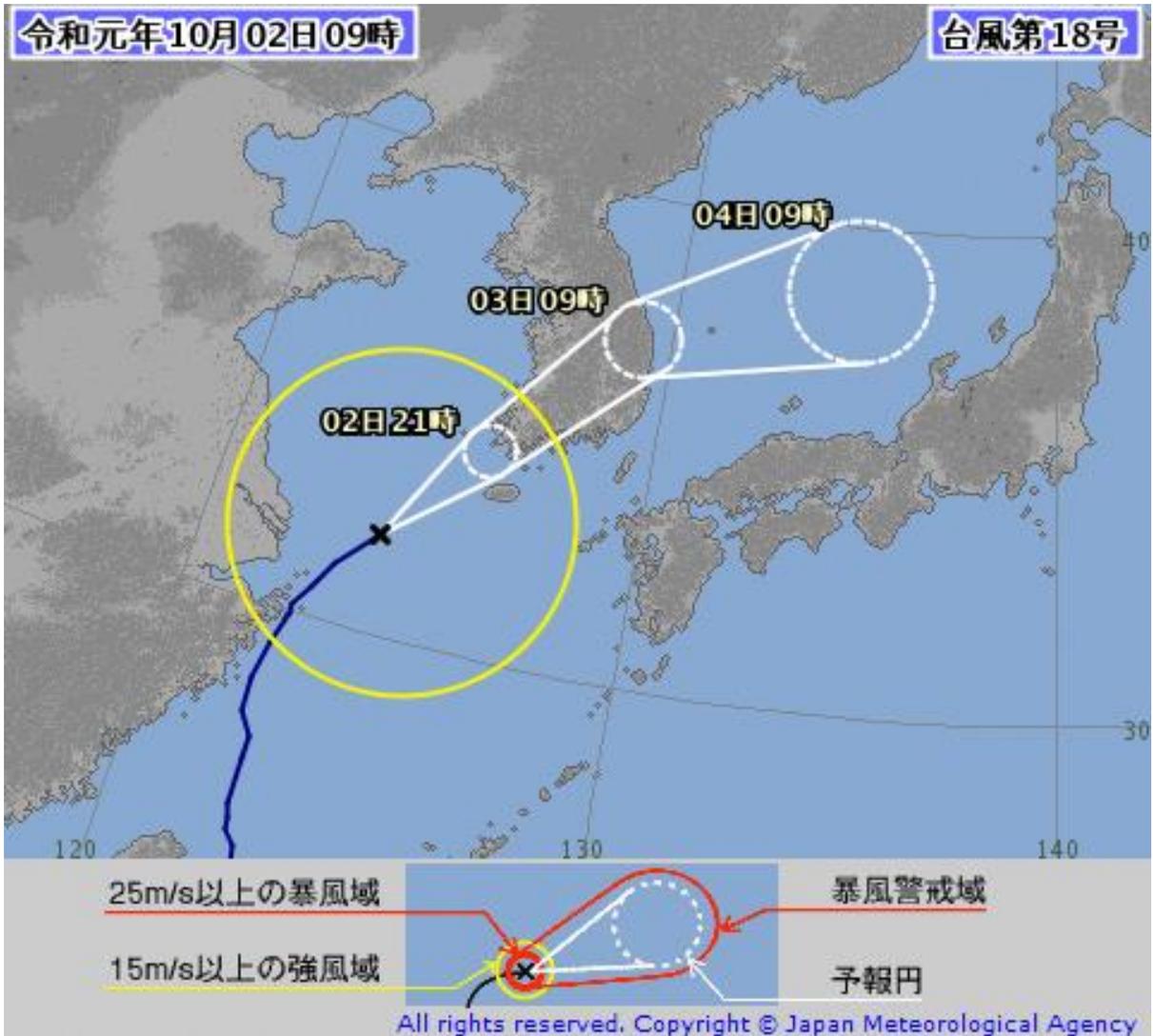
- ① 飼料畑ほ場に排水溝を設けて表面排水対策を徹底する。
- ② ロールベールサイレージのラップやバンカーサイロ等の被覆ビニールは、網をかけるなど強風による破損を防止する。
- ③ 飼料用とうもろこしについては、天候に応じ糊熟期以降であれば一部収穫の前倒しを検討する。

（２）事後対策

- ① 倒伏したソルガムは、速やかに収穫し品質の低下を防ぐ。
- ② 飼料用とうもろこしは、倒伏の傾きが45度以下なら生育に支障がないので、収穫せずに登熟を進める。地際まで倒伏した場合は、熟度が進んだものほど回復が小さいので、折損により回復が見込めないものを優先して、熟度に応じて収穫時期を決定する。
- ③ ロールベールサイレージのラップやバンカーサイロ等の被覆ビニールに破損箇所があれば、再度ラッピングするなり、テープを貼るなどサイロの気密性確保に努める。

Ⅲ 気象の概況

台風の進路予想



〈2日09時の実況〉	
大きさ	-
強さ	-
存在地域	東シナ海
中心位置	北緯 32度00分(32.0度) 東経 124度00分(124.0度)
進行方向、速さ	北北東 20km/h(12kt)
中心気圧	985hPa
中心付近の最大風速	25m/s(50kt)
最大瞬間風速	35m/s(70kt)
15m/s以上の強風域	北東側 440km(240NM) 南西側 330km(180NM)

